

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463413

研究課題名(和文) 糖尿病患者のセルフケア自己評価支援ツールとCDE看護師育成プログラムの開発

研究課題名(英文) Self-Evaluation by Self-Care Patients with Diabetes; Creating Support Guidelines to Encourage Self-Evaluation of Self-Care

研究代表者

脇 幸子 (WAKI, Sachiko)

大分大学・医学部・准教授

研究者番号：10274747

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：糖尿病患者は長期にわたってセルフケアを自分の生活の中で行うため、日々自分のセルフケア状況の評価し、自分の生活に合わせて調整方法を工夫していくことなどが重要となる。一方、そのセルフケアには困難性を伴うため、2つの研究からCDE(糖尿病療養指導士)が効果的に活動できるような、セルフケア自己評価を促す支援のガイドラインの示唆を得ることを目的とした。

セルフケア自己評価の支援は、糖尿病である自己を見つめなおしたり、自己の状況を客観視し、原因探索をすることを促しており、また、セルフケアの自己評価がセルフケア能力の向上につながっている意味でもその有用性やガイドラインの視点が示唆された。

研究成果の概要(英文)：Diabetes management is essential. It should be effective and adjustable for diabetic patients. Patients with diabetes should assess their self-care to manage their disease.

From the results of our first two studies, our objectives became clear, which was to create Support Guidelines to Encourage Self-Evaluation by Self-Care Patients with Diabetes.

In conclusion, to create support guidelines to encourage self-evaluation of self-care, nurses should establish good relationships with patients. Nurses should listen to and accept patients' feelings.

Nurses should give positive feedback that shows appreciation for the effort patients take. Nurses should discuss the results in an objective way with patients. Nurses should help patients do appropriate self-evaluation by providing the knowledge to improve their monitoring.

研究分野：慢性看護学

キーワード：セルフケア自己評価支援 糖尿病看護 CDE看護実践能力 外来看護

1. 研究開始当初の背景

(1) 糖尿病の自己管理である血糖コントロールや合併症予防は、その人のライフサイクルの中で繰り返されるため、単に治療をすればよいということだけでなく、どの治療をとってもその人自身のセルフケアが必要となる。そこには、糖尿病患者の生活上の困難性として、生活調整における苦痛、努力が必要であること、合併症への不安、自己管理をしながらの社会生活への適応、糖尿病を持ちながら生きることへの心理的負担など様々な報告がある。加えて、糖尿病をもつ人は長期にわたってセルフケアを自分の生活の中で行わなければならないため、日々自分のセルフケア状況を評価し、効果を実感したり、自分の生活に合わせて調整方法を工夫していくことなどが継続してセルフケアを行う上で重要となる。また、そのことが患者の主體的なセルフケアへの取り組みにつながることにもなる。

(2) 研究代表者の脇は先行研究(2009, 2010)により、糖尿病患者のセルフケア自己評価と支援について検討を重ねている。実践の中で、看護師から見える現象としては“わかっているけどできない”、“知識・技術を持っているのに実行が伴わない”といった状況が少なくない。それは、セルフケア方法の習得を目指した知識提供や行動変容のための教育が中心となっている現状や、患者がよりよく自己のセルフケア状況を評価し、次の実行へつなげるための支援にはあまり目が向けられていないことが関与していると考えられる。

(3) 2001年からはCDEJ(Certified Diabetes Educator of Japan: 日本糖尿病療養指導士)が発足し、高度で幅広い専門知識をもち、糖尿病患者のセルフケアを支援している。また、一部の地域ではCDEJが認定される数年前から、地域における糖尿病医療の充実が叫ばれ、先立って地域ごとに療養指導士が養成され、LCDE(地域糖尿病療養指導士)が誕生している。

2. 研究の目的

糖尿病患者のセルフケアの困難性に伴い、糖尿病医療に関する知識や技術を学んでいるCDE(Certified Diabetes Educator: 糖尿病療養指導士)が、煩雑な外来業務の中で、備えている資質を活かして効率よく、効果的に活用できるような、セルフケア支援ツールとCDE看護師の育成プログラムを開発する。

(1) 【研究1】研究者らが開発したタッチパネル式セルフケア自己評価尺度を活用した支援を通じた糖尿病をもつ人の語りから自己評価の意義を検討する。

(2) 【研究2】先行研究で明らかとなっている糖尿病をもつ人のセルフケア能力の要素につ

いて、パス解析を用いて、その関連を探り、セルフケア能力の構造を吟味することでセルフケアにおける自己評価の位置づけを検討する。

(3) 【研究1】と【研究2】の結果に基づいてセルフケア自己評価を促す支援のガイドライン作成に向けての示唆を得る。

3. 研究の方法

(1) 【研究1】A 大学病院糖尿病専門外来を受診している糖尿病をもつ人5名に2011年6月から2012年4月の11カ月間で、タッチパネル式セルフケア自己評価尺度を用いて支援を行い、その時の患者の語りや看護師の関わりをデータとして収集した。データ分析は質的統合法を用いた。

(2) 【研究2】対象は、外来通院中あるいは入院中の糖尿病をもつ人368名に糖尿病セルフケア能力の要素8因子60項目について調査した先行研究のデータの二次分析を行った。分析はSPSS, AMOS (Vr.22)を用いた。

先行研究の因子分析によってIDSCA(糖尿病患者セルフケア能力測定ツール)の7因子に含まれなかった【身体自己認知力】6項目について、妥当性を検討するために主因子法にて因子構造とCronbachのアルファ係数を算出し内的整合性を検討した。

IDSCAの7因子との関係性を見るために、先行研究で明らかにされている「セルフケア能力の要素の構造図」をモデルとして、その理論に沿っていくつかのモデルを検討しデータをあてはめ、パス解析を行った。

4. 研究成果

(1) 【研究1】タッチパネル式セルフケア自己評価尺度を活用した支援を通じた糖尿病をもつ人の語り

総合分析の結果、8つのシンボルマーク(【】で示す)が抽出された。対象となった糖尿病をもつ人は、自己評価尺度を用いた支援の中で、【糖尿病である自分：直視したくない】や【糖尿病である自分：触れられたくない】という思いが語られる一方で、【内在する思い：病いをもって生きることの重大性を実感】【内在する思い：後悔と先行きの不安】も抱いていた。そして、【二の足を踏む：わかっているけどできない、自信を持ってない】状況を語り、そして、【客観視：自身の良い面と悪い面の両方に目を向ける】や【原因探索：HbA1c・体重・実行状況の振り返り】につながった。さらには【自己決定：医療者への要望や次の一步の表明】がなされる場合もあった。(図1)

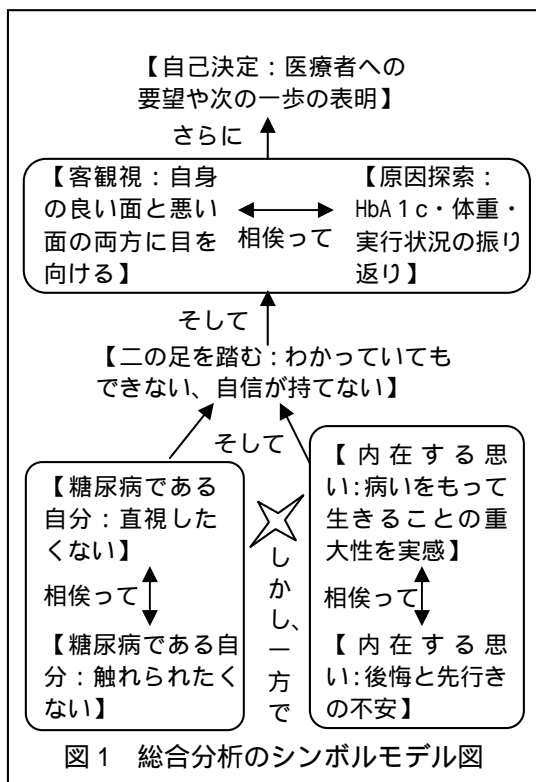


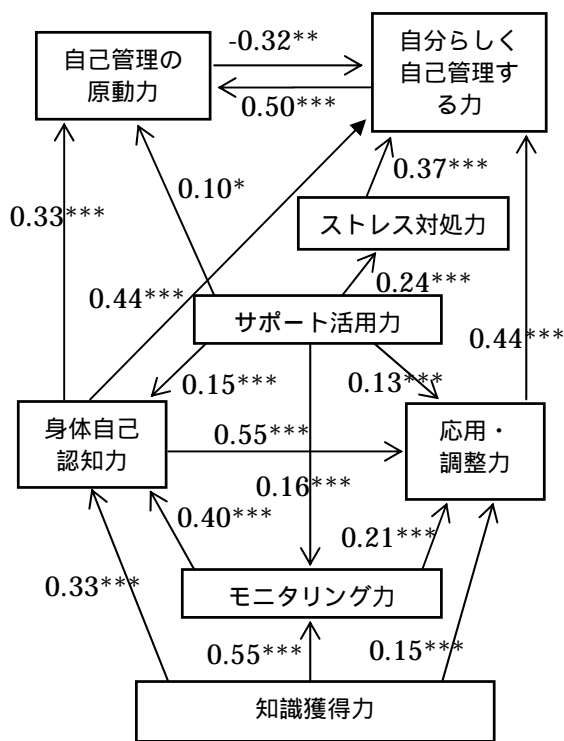
表1 身体自己認知力の因子分析 主因子法プロマックス回転によるパターン行列

項目	1回目		2回目	
	因子負荷量	共通性	因子負荷量	共通性
自己管理が自分にとって欠かせないものであると思う	0.597	0.357	0.600	0.360
自分の身体に何かが必要かいつも自分の身体に聞いている	0.730	0.533	0.743	0.552
自分に生じた症状がどんな意味をもつか分かる	0.635	0.403	0.642	0.412
糖尿病の重大性や危険性をひしひしと感じている	0.548	0.300	0.555	0.308
自分の体の調子を整えるために気をつけていることがある	0.544	0.296	0.511	0.262
糖尿病のことはどこか他人事のように感じる	0.304	0.092		
累積寄与率(%) Cronbach		33.022		37.881 0.739

(2)【研究2】糖尿病をもつ人のセルフケア能力のパス解析を用いた構造モデルの検討

【身体自己認知力】6項目に対し、2回目の主因子法、プロマックス回転を行った結果、5項目1因子の累積寄与率は37.88で、5項目の因子負荷量は0.511~0.743、Cronbachの係数は0.739であった。(表1)

IDSCA(修正版)7因子と【身体自己認知力】5項目とのパス解析では、【知識獲得力】からの直接影響は、【身体自己認知力】に対してパス係数0.33、【モニタリング力】に対して0.55、【応用・調整力】に対して0.15であった。【自分らしく自己管理する力】への直接影響は、【身体自己認知力】が0.44、【応用・調整力】が0.44、【ストレス対処力】が0.37であった。そして、【自分らしく自己管理する力】は【自己管理の原動力】に0.50と強い正の直接影響がみられた。一方、【身体自己認知力】は【自己管理の原動力】に0.33と直接影響をしていたが、その【自己管理の原動力】は【自分らしく自己管理する力】-0.32と負の関係もみられた。パス解析モデルの適合度は、適合度指標(Goodness of Fit Index): GFI=0.974、調整済み適合度指標(Adjusted GFI): AGFI=.914であった。(図2)



GFI(Goodness of Fit Index)=0.974

AGFI(Adjusted GFI)=0.914

数値 = パス係数

***P<0.001 **P<0.01 *P<0.02

図2 セルフケア能力構造モデル IDSCAと身体自己認知の関連図(パス図)

(3) セルフケア自己評価を促す支援のガイドライン作成に向けて

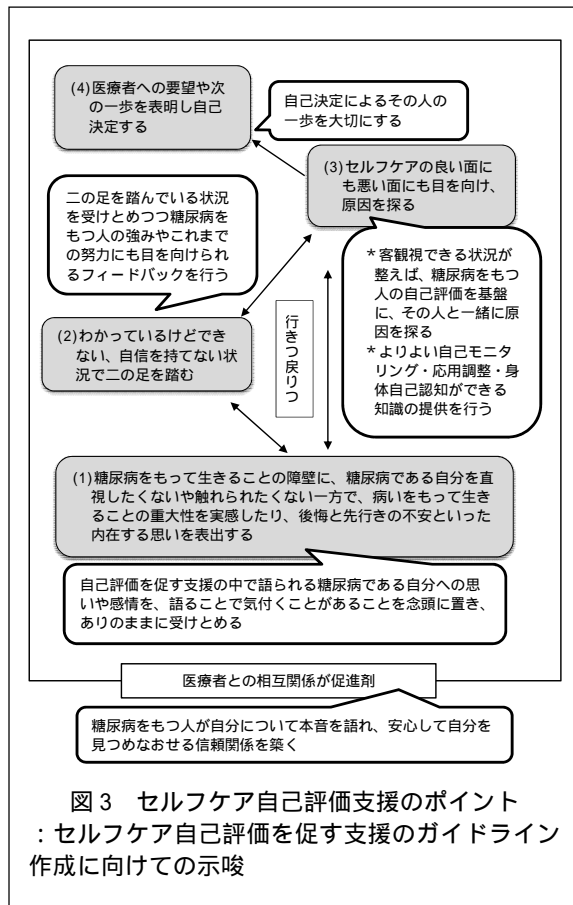


図3に示すように、【研究1】の結果より、「糖尿病をもつ人が安心して自分を見つめなおせる信頼関係を築く」こと、「自己評価を促す支援の中で語られる糖尿病である自分への思いや感情をありのままに受け止める」こと、「二の足を踏んでいる状況を受けとめつつ、糖尿病をもつ人の強みやこれまでの努力にも目を向けられるフィードバックを行う」こと、「客観視できる状況が整えば、糖尿病をもつ人の自己評価を基盤に、原因探索をその人と一緒に行う」、「自己決定による糖尿病をもつ人の一步を大切にすること」が重要であり、これらのことを糖尿病をもつ人と一緒に行うプロセスが、糖尿病をもつ人の自己決定を促し、主体的なセルフケアを支えることになることが示唆された。

また、こうしたセルフケア自己評価の支援は、糖尿病である自己を見つめなおしたり、自己の状況を客観視し、原因探索をすることを促しており、セルフケア能力の【身体自己認知力】や【モニタリング力】の向上につながっていると考えられる。また、【研究2】の結果からも【知識獲得力】は直接、【自己管理の原動力】や【自分らしく自己管理する力】にはつながらず、【身体自己認知力】や【モニタリング力】を介して、それらの能力につながっていることから、セルフケア自

己評価支援の有用性が示唆され、また、セルフケア能力の位置づけを考慮した自己評価を促す支援のガイドラインの作成が必要と考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

Sachiko WAKI, Yasuko SHIMIZU,
Kyoko UCHIUMI, Kawai ASOU, Kumiko KURODA, Naoko MURAKADO, Natsuko SETO, Harue MASAKI and Hidetoki Ishii, Study on the structural model of self-care agency in patients with diabetes: A path analysis of the Instrument of Diabetes Self-Care Agency and body self-awareness. *Japan Journal of Nursing Science*. 査読有. 2016.5.25. doi:10.1111/jjns.12127

Sachiko Waki, Yasuko Shimizu, Natsuko Seto, Mayumi Sugahara, Yoshiko Yoshida, Insights into self-care behavior of patients with diabetes: support using a computerized self-evaluation system. *Journal of Nursing Education and Practice* 査読有. 2016, Vol. 6, No. 10, 51-64. DOI: 10.5430/jnep.v6n10p51 URL: <http://dx.doi.org/10.5430/jnep.v6n10p51>

[学会発表](計 3件)

Sachiko, Waki. Self-Evaluation by Self-Care Patients with Diabetes Creating Support Guidelines to Encourage Self-Evaluation of Self-Care. The 10th International Nursing Conference. State of Science & Future Perspectives: Chronic Illness. Saturday, November 5th, 2016. 招聘講演. Korea, Korea University.

脇幸子, 清水安子, 瀬戸奈津子. 視力低下のある糖尿病患者の自己評価の様相～セルフケア自己評価尺度を活用して～. 第8回日本慢性看護学会学術集会. 2014.7.一般, 福岡県久留米市, ホテルマリタール創世久留米.

S. Waki, Y. Shimizu, N. Seto. Words and behavior concerning self-evaluation by a diabetic patient in relation to using a self-evaluation scale for self-care ability. the World Diabetes Congress 2013 Melbourne organised by the International Diabetes Federation 2013.12. poster, Melbourne, Australia

6. 研究組織

(1)研究代表者

脇 幸子 (WAKI, Sachiko)

大分大学・医学部看護学科・准教授

研究者番号：10274747

(2)研究分担者

清水 安子 (SHIMIZU, Yasuko)

大阪大学・医学系研究科・教授

研究者番号：50252075

(3) 研究分担者

瀬戸 奈津子 (SETO, Natuko)

関西医科大学・看護学部設置準備室・教授

研究者番号：60512069